

一般社団法人日本口腔衛生学会
会員 各位

新型コロナ感染の拡大で新年の幕開を迎え、大変な時期となっておりますが、皆様お元気でお過ごしでしょうか。

さて、昨日今日と、地下鉄大江戸線の運転士 39 人に「歯磨きの際の唾液が付着した手で蛇口を触れたことにより、感染が広まった可能性が高い」との報道が日本中に広まり、本学会会員におかれましても、学校保健や産業保健の歯科保健指導で頭を痛めておられるのではないかと心配しております。報道によれば、保健所の発表ということでしたので、保健所がどのような根拠に基づいてこのような結論を下したのか不思議に思い、保健所に聞き取り調査を行うため新聞社に正確な保健所名を訪ねてみますと、分からないとのことでした。それでは事実確認ができないのではないかと指摘したところ、この情報元は都営地下鉄の広報部であるので、都営地下鉄に尋ねて欲しいとのことでした。そこで、都営地下鉄広報部に連絡を取り、調査にあたった保健所名を尋ねたところ、保健所は江東区保健所とのことでしたが、保健所は単に聞き取り調査を行っただけで、感染源についての具体的検査等を何も行ってはいないことが分かりました。

広報部の記者会見では保健所から指摘された飲食を含む様々な感染の可能性を報告したそうですが、歯磨きの際に唾液に汚染された蛇口もその可能性の一つであったとのことでした。しかし、いざ記事になると目新しい「歯磨きの際に唾液に汚染された蛇口」が切り取られ、あたかも「歯磨きの際に唾液に汚染された蛇口」が感染源であったと断定されたかのような記事が飛び回っています。たしかに「歯磨きの際に唾液に汚染された蛇口」が感染源の一つであった可能性を否定する根拠はありませんが、記事の内容は必ずしも記者会見の内容を正確に反映していないことを都営地下鉄の広報部の方から聞き取ることができました。記事をよく読めば可能性と書いているので、間違った記述ではありませんが、他の可能性を敢えて言及していない点に問題がありそうです。また、この手の記事では見出しに惑わされることが多いようです。

何が事実かとうことは結局分かりませんが、マスコミ報道に振り回されず、事実を見極める目が大切であることをお伝えします。

本年が会員の皆様にとって良い年であることをお祈りしております。

日本口腔衛生学会
理事長 山下喜久